

● WINDS CAFE 335 in 原宿 ●

【打楽器百花繚乱 XI - 続・北原白秋のまざあ・ぐうす -】

11月17日(日)14時開演@原宿カーサモーツァルト

第一部

會田瑞樹、自作を語る

「作曲前夜」

初めて発表した作品「星の流れは大地を目指す」作曲の経緯
三作品を発表し考えたこと
一度筆を折る

師匠の一言と打楽器奏者と作曲家の関係
打楽器音楽を盛り上げるにはどうしたらよいか
松村禎三作品との出会い、ヴィブラフォンの存在意義
楽器を盛り上げるということ
大学構内で耳にした、ある一言

2010年、デビュー。

「一貫して邦人作品の魅力の追求に...」
作曲家と協働した新作発表を継続して。
その目論見と誤算
委嘱の中で見えてきたこと。

作曲前夜

Dedicated to Tsuguyo Fuchita and Kiyoshi Itaya

Special Thanks to Tatsutoshi Kawamura

ソプラノ独唱とピアノのための
組曲《北原白秋のまざあ・ぐうす》

(1921/2023/2024/世界初演)

まざあ・ぐうす 作詩：北原白秋 作曲：會田瑞樹

淵田嗣代 (ソプラノ)

板谷潔 (ピアノ)

お月さま光る

駒鳥のお葬式

お月夜

朝焼け夕焼け

とことこ床屋さん

あめあめいっちまえ

日の照り雨

セント・クレメンツの鐘

間奏曲

月の中の人

お月様の中のお人が

蝋燭

小ちなテイウイ

三月、風よ

ゆりかごうた

ねんねこうた

おばあさんと息子

てんたう蟲

暖かい麵麩

タッフィ

ABC

空はじめじめ

がぶがむ、むしゃむしゃ

泣け泣け

北風吹けば

めくら鬼

12の手遊び歌

おしまひ

掌の《まぎあ・ぐうす》によせて

本作品は、2023 年から継続して作曲を続けている《北原白秋のまぎあ・ぐうす》をソプラノ独唱とピアノのために再作曲を手掛けたものである。歌とピアノという身近な編成に置き換えることで、誰でも気軽に楽しめるように、特にピアノパートは初学者の子どもたちにも親しみやすいように、単音を中心にするので「はじめて合奏する喜び」を広く味わって欲しいという願いを込めた。これは、僕自身が音楽大学を受験するためにピアノを始めた晩学であり、技巧的な演奏にまったく縁のなかった自分からの、音楽上のひとつの提案でもある。技巧的な名作は世界に数多く存在しているし、そういう素晴らしいものは、よく勉強をされた、作曲家に任せて、僕自身は、僕の生き様を、ここに表明したいと思ったのである。

この心境に至ったのは、2023 年から指揮者の任に預かっている千代田区立九段小学校”九段 planets”の小さな音楽家たちとの交流、そして 2024 年から半年ほど携わっている渋谷区立上原中学校吹奏楽部の生徒諸君からの影響を強く感じている。心から感謝の思いである。

さらに、湊田嗣代さん、板谷潔さんの気心知れたアンサンブルへの深い期待を込めての作曲となった。ピアニストはピアノを弾くだけにとどまらず、歌も歌うし、ピアノを打ってみたりもする。

また、掌のまぎあ・ぐうすを知っていただくことで、大編成版まぎあ・ぐうすへの呼び水となることも期待している。抜粋での演奏も大歓迎である。

是非ご家庭で、歌ってみてほしい。北原白秋が一番望んだことだろうから。

また今回もこのような素晴らしい機会を用意してくださった、名伯楽川村龍俊さんに深く感謝を込めて、本作品を捧げるものである。

會田 瑞樹

2024 年 8 月 20 日

千代田区立九段小学校夏稽古を終えたカフェドクリエ店内にて

出演者プロフィール

●會田瑞樹（あいた・みずき）：1988年宮城県仙台市生まれ。2010年日本現代音楽協会主催”競楽IX”第二位入賞と同時にデビュー以降、これまでに300作品以上の新作初演を手がけ「初演魔」の異名をとる打楽器／ヴィブラフォン奏者。作曲家として2019年第10回JFC作曲賞入選、2021、2023年リトアニア聖クリストファー国際作曲コンクール特別賞を2度にわたり受賞。2022年2月には東京都「アートにエールを！」採択事業として初の自作自演個展を開催。10月には自らが作曲を手掛けた《祭禮 - 二台のヴィブラフォンのための協奏曲 -》を新田ユリ指揮、京都室内合奏団とともに世界初演。2023年10月には全45曲からなる《北原白秋のまぎあ・ぐうす》を発表。『今年出会った「新作」の中で、将来の育ち方が最も楽しみなひとつ。リミックスの時代たる21世紀の「創作』（渡辺和氏）等の賞賛を受ける。2020年発売の最新アルバム「いつか聞いたうた ヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」は年間最優秀ディスクとなる第59回レコードアカデミー賞受賞。ヴィブラフォン、現代作品の魅力を多彩に紹介した成果により令和2年度大阪文化祭奨励賞、令和3年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。

かななくホールレジデントアーティスト。千代田区立九段小学校”九段 planets”サポーターとして指揮者の任にあたるなど、ジャンルを越えた縦横無尽の活躍が続いている。

2024年6月にはタイ・バンコクにおいて新作《日比谷》(萩原恭次郎詩)永野伶実氏委嘱作品《優しい女》両作品は大きな反響を集めた。8月には指揮者として”九段 planets”を率いて第72期TBSこども音楽コンクールに楽団創設以来の初参加。9月26日にはリトアニア・ヴィリニウスにおいて、モデスタス・バルカウスカス指揮、聖クリストファー室内合奏団シーズンオープニングコンサートに6年ぶりにソリストとして招かれ、自らが作曲を手掛けた《Stardust - Concerto for Vibraphone and Strings Orchestra -》世界初演は熱狂のスタンディングオベーションに迎えられ圧倒的成功を収めた。11月には瀧田嗣代氏委嘱作品《鶯の歌》(北原白秋詩)の初演、11月30日には《北原白秋のまぎあ・ぐうす》を中心とした自身三度目となる作品個展が北区文化振興財団との共催で滝野川会館での開催が予定され、演奏、創作の両面からその音楽性を発揮し続けている。

<http://mizukiaita.tabigeinin.com>

●瀧田嗣代（ふちた・つぐよ）：鹿児島市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。第46回滝廉太郎記念音楽祭全日本高等学校声楽コンクール第1位、第41回南日本音楽コンクール優秀賞、1997年鹿児島県新人演奏会にて県知事賞受賞。

在学中よりウィーン短期留学ワークショップに参加。新曲演奏、室内楽、オーケストラ共演等積極的に参加。現在は報道番組の放送ディレクター傍ら、演奏活動を行っている。

●板谷潔（いたや・きよし）：東京音楽大学卒業。これまでにポーランド国立クラクフ室内管弦楽団、東京ニューシティ管弦楽団等と共演。第1回ショパンピアノコンクール in ASIA 入賞など受賞多数。セントビンセントへ青年海外協力隊員として派遣され、同国の総督邸にてリサイタル開催。帰国後も積極的に演奏活動をしつつ、川崎市及びさいたま市にてピアノ教室ぴぶらを主宰し、後進の指導にもあたっている。スタインウェイ・エデュケーショナル・パートナー。